

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 1970101091 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 善隣会 | | |
| 事業所名 | グループホーム山径 | | |
| 所在地 | 甲府市和田町2948番地の6 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 3 年 10 月 30 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 年 月 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|---------|-------------|
| 評価機関名 | 山梨県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 甲府市北新1-2-12 |
| 聞き取り調査日 | 令和3年12月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る方には可能な範囲で、食事の支度や掃除、洗濯などの家事を行い、自宅に近い状況での生活が送れるよう支援している。買い物は近隣のスーパーで購入し、近隣のお米屋さんや八百屋さんにも配達して貰うなど、慣れ親しんだ食材を使用している。、四季の行事を大切に、四季折々の食材を使い、季節を感じてもらえるよう工夫している。コロナ禍で、面会が制限されている中、御家族とは毎月「山径通信」を通じて生活の様子を写真付きで報告すると共に、三か月に1回、居室担当より手紙にて生活の様子を報告し、ご家族との関係も構築している。山径通信を通して、生活の様子が分かる、とても好評を得ている。また、終末期ケアに取り組み、専門医と連携をとり最後までその人らしく過ごせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○利用者の特性により、健康管理や医療体制は重要事項になりますが、事業所に常勤看護師を配置し、また、協力医療機関として地域の4医療機関と提携し、内科医が月2回往診する等利用者に必要な全科の医療体制を組織として確保しており、利用者・家族の安心・安全な健康・医療管理体制が構築されています。

○グループホーム山径は、同法人のデイサービスセンターが併設し、特別養護老人ホームも隣接しており、日常的に利用者・職員の交流ができ、行事や防災訓練、非常備蓄、職員研修も合同で実施する等、様々な機能の共用と一体的な運営が展開されています。

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|--|------|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「お互いに仲良く助け合うホーム」「各自が役割を持ち、笑顔あふれるホーム」「和やかな会話が絶えないホーム」「地域の方と交流を持ちながら暮らせるホーム」この4点を理念に、日々の実践に繋げている。また、週1回のミニミーティングやスタッフ会議などでも確認し、共有している。 | ○理念は、左記のとおり認知症対応型共同生活介護事業の意義や役割を読み取ることができる4項目が掲げられ、週1回のミーティングやスタッフ会議等で4つの理念について確認し、全職員の周知共有と日々の実践に努めていることを資料や記録等で確認できました。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は地域との交流は中止している。 | ○理念の「地域の方との交流を持ちながら暮らせるホーム」にもとづいて、地元和田町自治会に加入して、地域の行事にも利用者・職員は積極的に参加し、また、事業所の行事にも近隣地域住民に来ていただく等の相互交流が定着しています。現在は、コロナ禍で交流活動が制限され、利用者・職員も寂しい思いを訴えているとの管理者のコメントでした。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて、地域の方やご家族の方に伝えている。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 入居者の状況、サービス状況等の説明を行い、参加者から率直な意見を頂き、日々のサービスへ繋げる努力をしている。 | ○運営推進会議は、年6回開催していますが、本年度はコロナ禍で1回のみ開催で、あとの推進会議は、現在の利用者の生活の様子や施設運営の現状課題を具体的に示した会議資料を各委員に送付して、委員の皆さんからもコロナ対策についての意見等が多く寄せられたとの管理者のコメントがありました。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の介護相談員が来所している。二カ月に一度、運営推進会議録にて入居者の現状や状況、取り組み内容等を報告している。 | ○市町の担当部署とは、主に管理者が窓口として、日常的に連絡を取り合い、上記の運営推進会議の開催記録もその都度、管理者が持参して報告する等協力関係が培われています。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年2回研修会を実施し、スタッフ会議ではアクシデントやインシデントについて再度振り返り、再検討をしている。また、二カ月に一度、身体拘束適正化について会議を行っている。行動制限のないよう見守りし、安全確保と寄り添う介護に努めている。 | ○身体拘束適正化委員会が2カ月に1回開催され、また、年2回の身体拘束防止全体研修会も定期的実施され、具体的な事例研修についてはスタッフ会議で検討する仕組みがあります。玄関の施錠は夜間帯のみで抑圧感のない暮らしづくりが伺えます。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年に2回研修会を実施。入居者の身体的・精神的変化は記録に残すと共に、日頃のケアを振り返り、不適切ケアについて職員で考える、話し合える職場作りに努めている。 | | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 身元引受人が県外にいる方が増えてきている。他事業所とも相談や助言を頂きながら対応している。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時、契約書や重要事項の説明を行い、その場では理解し難い部分においても、ご家族の思いを聞きながら日々の関わりの中で説明している。 | | | |

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム山径

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | 外部評価 |
|------------------------------|-----|--|--|--|
| | | | ユニット名() | 実践状況 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者へは、日々の関わりや、月に1回行われる入居者主催の「なでしこ会」にて意見や要望を聞き、行事食や外出レクなどに繋げている。ご家族に対しても、担当者会議の際や面会時、電話連絡等を利用して意見や要望を聞いている。 | ○利用者自治会(なでしこ会)が月1回開催され、利用者個々の意見や要望等を把握する機会を設け、行事や献立等に利用者のニーズを反映させる仕組みがあります。また、家族については、利用者個々の活動の様子(写真等)を便りとして定期的に送付し、特に面会に来られない県外在住の家族には好評とのことです。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回管理者は、運営者と意見交換を行っている。また、スタッフ会議やミーティングの際などにおいて、意見交換を行い、その内容を運営へも活かせるようにしている。 | ○管理者は、日常的に職員個々とコミュニケーションを図り、ミーティングやスタッフ会議にも必ず出席し、職員の意見、要望を把握し、毎月1回の理事長との話し合いで報告する仕組みがあります。また、年1回職員と理事長との意見交換会も実施され、職員の要望や提案を運営に反映させる仕組みがあります。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 初任者研修において、就業規則についての説明や嘱託職員から正規職員への登用も行っている。スタッフ会議においては、個々の意見を尊重した意見交換に努めている。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格取得の為に研修への参加。また、月1回研修会を実施し、講師は持ち回りで行い個々のスキルアップに努めている。新人職員への研修は、勤務体制を考慮し優先的に参加してもらっている。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他事業所とは、会議や研修会等で行っている。リモート、ラインでネットワーク作りを行っている。 | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面接の段階でも要望や不安を聞き、どのような場所かの説明を行い不安解消へと繋げている。また、入居者にも困っている事や不安な事に対して聞きながら対応している。 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面接時には、要望や不安等の思いを聞き、説明を通じて理解を得ながら安心へと繋げている。随時、相談も可能である事も説明している。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面接時の記録やケアマネ、ご家族の情報から家族・本人が置かれている現状、必要としている事を見極め必要な対応を行っている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お互いに壁を作らず、日常での活動と一緒にいる事で、互いに信頼関係を築き、和やかに生活出来るよう努めている。 | |

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|------|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出や外泊、行事への参加等は行っていないが、電話やバーテンションを介しての面会の実施を行いながら、継続した関係を保っている。また、ご家族の役割を入居時に説明している。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在は馴染みのある場所への外出や人との面会が出来ていない。 | ○家族にも協力をしていただいて、馴染みの地域や商店に出かけ、お墓参りに行ったりしたとのことですが、コロナ禍で自由に外出することもなく、家族、友人知人の面会も少なくなり、利用者の中には、不穏状態の方もおられるとの管理者のコメントがありました。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 必要な方へは職員が間に入り、入居者同士へもお願いしながら互いの関係を支え合っている。月に一度入居者主催の「なでしこ会」を通じてより支え合えるよう支援している。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | コロナ前は、ボランティアとして来所して下さっていた。大体的場合は、退去後の関係はなくなってしまった。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 担当居室を持ち、よりその方の日常を把握できるようにし、互いに情報交換をしている。またご家族からの情報やアセスメント、日常の会話や表情、言動などを把握し、希望や意向を汲み取るよう努力し把握に努めている。 | ○利用者の思いや意向の把握については、月1回の自治会(なでしこ会)や担当職員による思いの把握や気づき等により、担当者会議で他の職員からの情報や家族からの情報を得ながら、できるだけ利用者本人の思いに寄り添う支援に努めています。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人やご家族、以前関係していた事業所へも連絡を取り、情報収集に努め、全職員で把握し共有している。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のバイタルサインや関わりの中で状態変化への気づきを常に職員間で共有している。また、個々の過ごし方や生活リズム、出来る事できない事等を把握し、記録に残し、確認ノート等も活用し共有できるように努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議にて、本人・家族の意向、往診医・看護師、関係者からの情報をもとに職員協議し、介護計画を作成している。また、ミーティング等でも、サービスの検討を行い現状に合った介護計画へと繋げている。 | ○所定のアセスメントシート、計画書式、モニタリングシートにより、日々の利用者個々の実践支援記録も参考にして、サービス担当者会議において、ケアマネジャーが中核になり、担当職員、看護師、管理者、ケースによっては家族や介護相談員にも参加していただき介護計画を策定する仕組みになっています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 確認ノートを活用し情報の共有を図り、ケース記録にてケアプランの確認、日々の様子、ケアプランに沿ったケアが出来ているか等記録に残し、モニタリングを通し介護計画の見直しをしている。 | | | |

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|------|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診や買い物など、ご家族が対応出来ない場合には、連絡を取りながら送迎や付き添い、代理購入などを行っている。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月1回理容師が来ている。以前は、近隣のスーパーへの買い物や行事への参加など行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域との関わりは持っていない。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時には、主治医についての説明と確認を行い、希望に合わせた主治医への連絡、往診等の対応を行っている。 | ○協力医療機関として地域の4つの医療機関がありますが、入所時に、本人や家族の希望により主治医を決めるようになっています。協力医療機関は、内科、心療内科、歯科、耳鼻科等が整備されており、内科医の月2回の往診もあり、医療体制は適切に整備されています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日のバイタルサインの実施と、週に1回、看護師による身体チェックを行い、日々の様子報告や気になる事について相談している。必要なアドバイスをもらい、往診医との連携へと繋げている。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 定期的に面会に行き、医師や看護師との情報交換を行い、退院への必要な援助についての確認を行いながら、早期に退院へと繋げている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に説明を行うが、重度化した際には、ご家族・往診医・看護師等必要関係者も交えた話し合いの場を持ち、連携体制の確保と方向性を決めている。 | ○重度化や終末ケアについては、利用開始時、状態や段階により、その都度、主治医と本人・家族、管理者、看護師、職員で対応を協議する場が設定され、情報を全職員で共有して、計画や手順書にもとづいて、チームケア支援に努めています。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年1回緊急時の対応について勉強会を実施し、連携体制の確認等もやっている。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアルの作成と年2回の防災訓練を実施している。防火管理者による防災教育等もやっている。 | ○防災計画にもとづいて、年2回の防災訓練を実施しています。避難訓練は、昼間、夜間の想定で実施し、併設の同法人のデイサービス事業所や特養とも連携して訓練を実施、非常備蓄品も共同で管理しています。また地元消防団に入っている職員に助言していただき、より適切な訓練に努めています。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりに合った声かけの工夫や会話の仕方や対応に心掛けています。入室時のノックや排泄面での言葉遣いには十分に注意している。年1回プライバシー保護や職業倫理についての勉強会を行っている。 | ○プライバシー保護規程が整備され、計画にもとづいて、年1回の全体研修会が開催され、全職員の周知徹底に努めています。また、虐待防止等の権利擁護に関する外部研修にも積極的に出席して、伝達研修も確実に、研修会記録を法人代表者に報告し、周知共有を図っています。 | | |

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の関わりの中や入居者主催の「なでしこ会」を開催し、希望や要望を伺う。選択の機会を多く持つようし自己決定にも配慮した働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その方の意見や要望・意向を尊重し、本人のペースに職員が寄り添い合わせた対応をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日常生活の中での整容、外出時のおしゃれ、好みの洋服を着て頂いている。月に1回理容師に来て頂き、希望者は利用している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 希望を取り入れたメニュー作りや、可能な方には出来る範囲で役割を持ってもらい、協力しながら行っている。 | ○利用者自治会(なでしこ会)や利用者個別の希望を反映した献立メニューにより食事が提供されています。また、利用者個々の特性に応じて、野菜を切ったり、テーブルを拭いたり等の役割分担があり、職員と利用者が一緒に食生活を楽しんでいる様子が伺えます。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 生活状況表の活用。栄養バランスを併設する栄養士に相談している。往診医の意見と合わせて行っている。水分については好みの物も用意し提供している。管理栄養士による勉強会も実施している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの実施。夜間はポリドントの使用。必要に応じて歯科医に相談・往診依頼している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表の記入やその方の行動、仕草などから声かけ等を行なう。排泄リズムの把握に努めている。 | ○現在、オムツ使用は2名、夜間帯のポータブルトイレ使用者は4名ということで、利用者の重度化・特性等により、年々排せつの自立支援が困難な状況になっているとの管理者のコメントでした。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | バランスのよい食事の提供や、食事量、水分量のチェック。排便を促すような寒天や牛乳、食物繊維や温度刺激、乳酸菌などの提供も行っている。排便チェックを行いながら往診医にも相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は毎日可能。希望に沿っている。入浴を好まない方には言葉かけの工夫をしたり、職員間で連携を図り対応している。 | ○入浴は、併設のデイサービスセンターの個浴や特養の機械浴も使用できるので、希望があれば毎日でも入浴対応体制があります。特に入浴を拒否する利用者にも毎日可能なので、無理強いすることもなく、余裕を持って対応できているとの管理者のコメントがありました。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活スタイルに合わせた就寝時間の提供。なかなか眠れない時には、お茶を提供、ゆっくり話をする事で安心出来る関わりをしている。 | | |

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|------|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳や処方箋ファイルを作成。その都度確認出来るようにしている。薬が変更になる際には、個別のファイルや確認ノートを活用し情報を共有を図っている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の力を見極め、生活歴などを把握しながら、食事の片付けや洗濯干し・畳み、掃除等の作業や、趣味の裁縫やカラオケなどの楽しみなどを支援している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在は外出は控えているが、ドライブやベランダ、玄関先へ出て周囲を歩く事も出来るようになってきている。 | ○現在は、コロナ禍で外出活動は制限されているとありますが、玄関先の広いスペースを散歩したり、併設のデイサービス、特養に出かけたり、ドライブで一緒に出かけたり等の外出支援の工夫があることを便り(山径通信)で伺うことができました。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人やご家族の希望に合わせ、職員が預かる事も行っている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に合わせ電話をかけ、かかってきたら取り次ぎ、やり取りが出来るようにしている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた花や装飾、新聞や雑誌を置き自由に読む事も出来る。窓の開閉、エアコンの温度調整、換気、湿度調節を行なう。ベランダにも椅子を用意して座ってゆっくり過ごせる環境を提供している。 | ○共用空間は設備が整い、明るいホールに隣接したベランダは、6人程の利用者がくつろげる広さが確保され、プランターに季節の花々が育てられ、居心地の良い共用スペースとして整備されています。今はクリスマスの飾りで賑わっているとの管理者のコメントがありました。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 席の工夫、自由に座れるソファや畳み、テレビや雑誌、新聞等の提供。一人ひとりが好きな時間を過ごせるように努めている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前に説明を行い、居室内の環境へは愛用品や愛着品を持って来て頂いている。居心地の良い環境が過ごせるよう設置や配置なども本人やご家族にお願いしている。 | ○居室は、利用者・家族の要望があれば、自由に配置替えや模様替えもすることができ、愛用品・愛着品も持参しています。また、エアコンが完備され、洗面台、クローゼットも設置され、利用者が落ち着いて快適に過ごせる居室環境に配慮していることが伺えます。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の生活行動の把握に努め、危険個所がないか確認し、改善する等自由な行動の妨げにならないよう安全へ配慮している。各居室の入口には表札を設けて、自分の部屋がより分かりやすくなるようにしている。 | | | |